

一流経営人の条件①MVP(平尾誠二氏の遺言)

企業経営漫談士 岡野実空

今回のコラムは、2016年10月に53歳という若さで亡くなった平尾誠二氏が、ラグビーの日本代表監督時代に行った講演から、特に印象に残った内容を編集したものです。タイトルが「MVP」だったので、てっきり「最も価値ある選手」の話かと思って参加したところ、M:ミッション、V:ビジョン、P:パッションというマネジメントの話。その分かりやすさ、面白さ、内容の深さに強い感銘を受けたので、氏の遺言として皆さんにお伝えします。但し講演録ではなく、氏のコンセプトに私見を交えた内容であることを、予めお断りしておきます。

M: ミッション(使命)

最初は単に好きで始めたラグビーも、キャプテンになれば、当然他の選手とは違う役割が発生します。すなわち選手の一人ということに加え、監督が考える戦略をしっかりと浸透させてチーム全体をまとめ、試合に勝利するという補佐役の立場です。また試合中は監督そのもの。またいよいよ監督ともなれば、自分の理想とするラグビーを伝達し、その実現に向けた役割分担とメンバー構成を考え、それが機能するよう育成、さらには動機づけなど、極めて難易度の高いマネジメントが加わります。

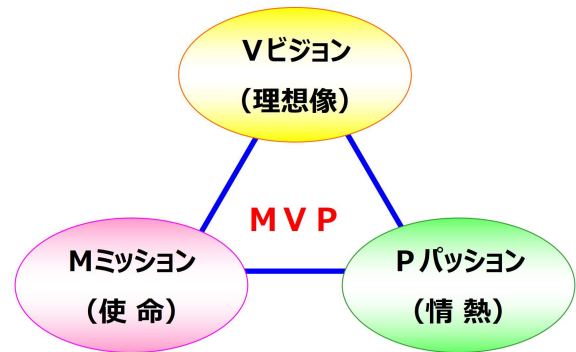
「立場」が変われば、新たにどんな「役割」を果たさなければならぬのか、という「自覚」が重要ですが、これは企業においても一緒。残念ながら、「サラリーマンは～気楽な稼業ときたもんだ！」の時代はとっくの昔に終わったのです。(もっとも、70代以上のいまだ呑気な世代はともかく、皆さんはそんな時代知りませんよね?)

V: ビジョン(理想像)

「名選手、名監督ならず」。選手と監督の明確な違いは、「ビジョン」の有無。すなわち自分が目指すのはどのようなラグビーなのか、そのためにどう行動してほしいのかを明らかにしない限り、選手は動いてくれません。特に氏は、メンバーが自分で考えながら臨機応変に動くという、当時としてはユニークな「ラグビー観」をもっていたので、それを理解し実行してもらうのはなおさら大変です。

まして一般社会では、なかなか自分の思い通りにはいかず、自分の実力や限界を思い知って、多くの方々が、当初の「理想像」を修正せざるを得なくなります。ミドルとなった皆さんも、新人のころ抱いたものとは随分違っているはず。しかし40歳前後で考えるものは、かなり実現性が高い「理想像」です。なぜなら、これまでの多くの経験から、「理想と現実のバランス」という妥当性が加味されているからです。

KM 0-11 一流経営人の条件①MVP



P: パッション(情熱)

優れた使命感、ビジョンが実現しない理由の多くはこの不足。特に頭が非常に良い方に多く、自ら泥をかぶり、時間がかかっても何とか実現しようという「意欲」があまり感じられない場面にしばしば遭遇します。また逆に、「情熱」だけが突出し、何をどのように実現したいのか? それにどう関わるのか、がまったく見えない、空回りの若手にもよくお目にかかります。

私たちが充実した人生を送るために、「肩の力が抜けた」真の情熱が、ミッション、ビジョンと見事にバランスしていなければならないことは、この講演の最大の遺訓といえるでしょう。

また氏は、多くの著作や対談集も残されました。

その内容は、ラグビーという枠を超え、学生、社会人を問わず、すべての人が参考とすべき教訓にあふれています。その内容は時代とともに進化し続けていただけに、その早すぎる死が残念でなりません。(せめて2019年ワールドカップ日本大会の評を聞きたかった!)

ここに改めてお悔やみを申し上げます。我が国ラグビー界永遠のMVP、平尾氏に改めて合掌!

2019年7月9日(初出平成29年3月20日) 実空